

7月11・12日に「灯台ワールドサミット in 東通」が開催されました！

開催&灯台点灯150周年を記念して、今月の小話では「尻屋埼灯台」歴史年表をお届けします。

本州最北東の地で航海の安全を照らし続ける尻屋埼灯台の歩みを、時代とともに振り返ってみましょう。

● 1876 (明治9年10月20日)	着工から3年4か月を経て初点灯 (光源：石油ランプ レンズ：2等不動フレネルレンズ)
● 1877 (明治10年11月20日)	日本初の霧鐘を灯台上部に設置
● 1879 (明治12年12月20日)	霧鐘に替わり霧笛（蒸気式）を導入
● 1883 (明治16年10月24日)	灯台のガラスを突き破り隕石が落下
● 1889 (明治22年4月)	レンズを2等回転フレネルレンズに変更 霧笛を蒸気式から空気圧縮式に変更
● 1901 (明治34年12月9日)	国内初のアーク灯を設置 (光源を石油から電気へ変更)
● 1923 (大正12年6月30日)	アーク灯を廃止し電球に変更
● 1945 (昭和20年7月9日~14日)	米軍の攻撃で各部に重大な被害を受け 点灯不能になる
● 1946 (昭和21年)	点灯不能にもかかわらず怪火現象起こり、 その後、仮灯を設置し怪火も無くなる。
● 1949 (昭和24年9月23日)	灯台が完全復旧し仮灯を撤去
● 1963 (昭和38年6月1日)	名称を「尻矢埼灯台」から「尻屋埼灯台」に変更
● 1971 (昭和46年12月9日)	霧笛の方式を空気圧縮式から ダイヤフラムホーン式に変更
● 1994 (平成6年3月25日)	航海計器の発達により霧笛を廃止
● 2006 (平成18年8月1日)	日本土木学会の土木遺産に選出される
● 2008 (平成20年)	経済産業省の近代化産業遺産に認定される
● 2017 (平成29年6月28日)	国の登録有形文化財になる
● 2018 (平成30年6月1日)	国内16基目の参観灯台となる
● 2022 (令和4年12月12日)	国の重要文化財に指定される

参考文献

尻屋埼灯台150周年記念誌(発行:灯台ワールドサミット in 東通実行委員会)、
東通村史(発行:東通村)